

【評定の評価基準】 A：80%以上達成 B：70%以上達成 C：60%以上達成 D：50%以上達成 E：50%未満

【アンケート結果】 4：できている 3：おおむねできた 2：あまりできていない 1：ほとんどできていない

領域	重点目標	評価指標	評定	考察（◇）及び改善方策（◆）	評価資料	評定	評価指数	4	3	2	1		
					地域住民	教職員	保護者	児童	地域住民	教職員	保護者	児童	地域住民
I 明るく	明るい対話	①子どもたちは、地域のことを知ったり、地域の方と交流したりできている。	A	85.7%	◇校外学習や戸祇の子学級、地域の行事がこれまでどおり行えるようになったことで、地域の方々との交流の機会が増え評価が上がっている。遠足で行ったウォークラリーも、地域を知る良い機会となった。 ◆行事の時だけでなく、地域の方が学校に来られた際には、学校や児童のためであることを児童に伝え、挨拶や会話など意図的に交流の機会を増やすようにする。	地域住民	A	87.5%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	
		②子どもたちは、気持ちのよい挨拶ができている。	A	86.5%	◇昨年度に比べ、地域住民の評価が10P以上高くなった。地域や玄関での決まった挨拶はできるようになっているものの、校舎内ですれ違った時や、突然の来校者があった時の挨拶は、十分でない実態もある。 ◆いつでも・どこでも・誰にでも、元気で気持ちの良い挨拶ができるよう、根気強く声掛けをしていく。 ◆挨拶の意義や大切さについて児童に理解させるとともに、教師が模範となりながら、元気で気持ちの良い挨拶ができるようにする。また、「あいさつ名人」の取組も継続する。	地域住民	A	96.9%	87.5%	12.5%	0.0%	0.0%	
		③子どもたちは、正しい言葉遣いをしていく。	B	79.7%	◇地域住民や教職員の評価が大幅に上がっている。しかし、保護者の評価は下がっているため、続けて相手を思いやる言葉遣いについて指導を続けていく必要がある。 ◆授業中や休み時間等、あらゆる場面において正しい言葉遣いについての指導を行う。また、できている児童を称賛しながら、学校だけでなく、家庭や地域でも実践できる児童を育てていく。	地域住民	A	84.4%	37.5%	62.5%	0.0%	0.0%	
	コミュニケーション力	④子どもたちは、相手の方を向いて分かるよう話を聞き、内容を聞き取る力が付いてきている。	B	74.2%	◇教職員、保護者の評価が低くなっている。相手を見ながら話を聞いたり、分かった時には返事をしたりするなど、聞く力を育てる指導の工夫が必要である。 ◆聞き方についてのマニュアルの作成や、聞き方についての系統立てた指導を行い、相手を見て聞くことや、相槌、返事ができる児童を育てる。また、伝わっているかの確認も行う。	教職員	C	65.6%	12.5%	37.5%	50.0%	0.0%	
		⑤子どもたちは、人に分かりやすく話す力が付いてきている。	B	77.1%	◇教職員の評価が上がってきていることから、授業や集会活動の中で、自分の考えを進んで発表しようとする児童が育ってきていることが分かる。聞き手を意識した声の大きさや、明瞭さについては継続した指導が必要である。 ◆友達のアドバイスを聞いたり、自分が話している様子を録画して見せたりするなどしながら、聞き手の立場に立った話し方の指導を行う。	教職員	B	78.1%	12.5%	87.5%	0.0%	0.0%	
		⑥子どもたちは、学習に意欲的に取り組んでいる。	B	76.5%	◇昨年度よりも評定が下がっている。「分かること」「できること」の喜びが感じられる授業の工夫が必要である。また、継続して目標の明確化と、評価との一体化を図っていく必要がある。 ◆授業の振り返りを工夫し、分かったことや楽しかったことなどを言語化させるなどの取組を行う。また、教師も児童の実態を把握しながら、「分かる」「できる」「伸びる」授業の実践に取り組む。	教職員	B	75.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
	II 正しく	共に学ぶ力	⑦子どもたちは、本を読み、読書の習慣が付いてきた。	C	68.8%	◇児童の評価は上がっているが、教職員、保護者の評価は大きく下がっている。また、本を読む児童と、読まない児童の二極化が進んでいる。保護者を巻き込んだ、全校での取組が必要である。 ◆児童に目標を立てさせたり、並行読書や読書ビンゴなどの取組を通して、本に触れる時間を増やせるようにする。また、家庭でも、「みきゃん通帳」や読書の様子など、児童の取組を知ってもらおう働き掛けを行う。	教職員	C	68.8%	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%
			⑧子どもたちは、タブレットや辞書を使う力が付いてきた。	A	83.1%	◇若干ポイントは下がっているものの、高い評価を維持できている。授業だけでなく、家庭でも有効的にICTが活用できるよう、その方法を探っていく。 ◆タブレットの活用方法を研修し、家庭においても定期的にタブレットを使う機会を増やしていく。	教職員	A	81.3%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%
		豊かな人間性	⑨子どもたちは、友達を思いやり、大切にしている。	A	86.1%	◇地域住民の評価も上がり、高い評価となっている。しかし、注意の仕方や言葉遣いがきついところを見かけることもある。児童一人一人に目を配りながら、思いやりあふれる明るい学校を目指して取り組んでいく。 ◆友達が困っていると優しく声を掛けてくれる児童は多い。相手の気持ちを聞いて、それを大切にしながら接することができるようにさせる。	地域住民	A	84.4%	37.5%	62.5%	0.0%	0.0%
	⑩子どもたちは、困ったときは誰かに相談する雰囲気ができている。		A	84.8%	◇SSWの活用はできている。1学期は定期的な教育相談が実施できなかったが、普段から児童との関わりを大切にしながら、何でも話せる関係づくりに取り組んでいく。 ◆これまでどおり、良好な児童との関係づくりを行うとともに、児童のちょっとした発言を聞き逃さず敏感に感じ取る準備をしておく。また、自ら問題を解決できる力も養っていく。 ◆今後も児童との人間関係を深め、何でも相談できる信頼関係づくりに努める。	教職員	A	87.5%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	
	めあてをもつ		⑪子どもたちは、自分で手洗いなどに気を付けたり、事故なく安全に生活しようとしたりする意識が身に付いてきている。	A	85.1%	◇保護者の評価がAからBへと下がっている。感染症対策が緩んできたことで、家庭での実践力も下がってきていると考えられる。新型コロナウイルス感染症だけでなく、様々な感染症に対して有効であることを児童に理解させ、継続して取り組めるようにしたい。 ◆給食前やトイレの後だけでなく、外から帰った時にも、石鹸を使って30秒間手を洗う習慣を徹底する。	教職員	A	87.5%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
							保護者	B	79.8%	35.5%	48.4%	16.1%	0.0%
児童							A	87.9%	57.1%	37.1%	5.7%	0.0%	

III	強く	た生活	⑫子どもたちは、朝ごはんを必ず摂る習慣が付き、体を動かすことを楽しいと感じている	A	89.8%	◇昨年度は、睡眠を取り上げていたため比較は難しいが、健康に気を付け、体を動かす習慣は身に付いていると言える。 ◆児童の実態を把握しながら、食生活の大切さを理解させる。また、学校保健委員会を活用し、保護者の意識も高める。	教職員	A	87.5%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
		根気強く努力	⑬子どもたちは、最後まで根気強く努力する姿勢が身に付いてきている。	A	80.4%	◇教職員、保護者の評価がBであることから、あきらめず最後までやり抜く力を育てていく必要がある。放課後の水泳練習では、少しずつ目標に向けて頑張る力が育ってきていると感じた。 ◆学習や特別活動の中で、児童が頑張っている様子をしっかりと認めながら、児童の意欲を向上させる。また、目標をしっかりと持たせ、それに向けて努力することの大切さを理解させる。	保護者	A	91.9%	22.6%	58.1%	19.4%	0.0%
			⑭子どもたちは、目標を立てて取り組もうとしている。	B	74.8%	◇生活目標、学習やメディアの目標を立て、振り返りを継続して行うことで、目標を達成しようという意識付けをすることができる。学校と家庭が更に連携した取組を行っていく。 ◆児童は様々な場面で目標を立て、それに向けて実践をしている。その様子を保護者にも知らせたり、振り返りの時間を大切にしたりする。	児童	A	90.0%	65.7%	28.6%	5.7%	0.0%
IV	地域に根差した教育	教職員の資質・能力の向上	⑮立てた目標を意識して取り組み、目標達成に努力した。	B	75.0%	◇教職員の評価が少しずつ上がってきている。目標チャレンジシート等を活用し、達成に向けた努力を重ねていく。 ◆目標達成に向けての経過のチェックや振り返りを行い、軌道修正をしながら、児童や学校、家庭や地域のためになる教育活動を実践していく。	教職員	B	75.0%	12.5%	75.0%	12.5%	0.0%
			⑯子どもたちの様子を観察し、適切に教育相談を行った。	A	93.8%	◇昨年度Bから大きく評価が上がっている。子どもたちが抱えている問題に対して、全教職員が共通理解を図りながら取り組んでいることが大きい。今年度も全職員で全校児童を育てる意識で取り組みたい。 ◆生徒指導上の問題はいつ起きるか分からないという危機感を持ちながら、教職員全員で情報の収集や共有に努める。	教職員	A	93.8%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
			⑰校務分掌以外にも、時と場に応じて助け合いができた。	B	75.0%	◇評定はBではあるが、ポイントは上がってきている。それぞれが多く仕事を抱えているが、互いに声を掛け合うことができる職場となっている。 ◆教職員一人一人の実態を理解し、尊重し合いながら協働する組織づくりを目指す。 ◆困ったときには「HELP」が言える職場、助け合い、支え合う職場づくりに努める。	教職員	B	75.0%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%
			⑱連絡・報告・相談を的確に行い、服務規律を遵守した。	A	93.8%	◇引き続き高い評価を維持できている。相談しやすい雰囲気大切に、今後も風通しの良い職場づくりを目指す。 ◆何事においても、「～かもしれない。」という意識で迅速な報告や連絡・相談に努める。	教職員	A	93.8%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
		信頼される学校	⑲学校は、子どもたちが安全・安心に生活ができる環境づくりをしている。	A	92.6%	◇保護者の評価が10P以上高くなった。職員が取り組んできたことが、保護者に届いたと考えられる。今後も、児童の安心・安全を第一に学校づくりを進めていく。 ◆地域と共に、児童の安全を守っていく組織づくりを進める。また、隣接する認定こども園ゆづっこの連携も深めていく。 ◆今後も、三島っ子見守り隊、保護者、三島駐在所、地域の方と連携しながら、毎朝の登校指導を行う。	地域住民	A	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
			⑳ホームページや各種通信・配布文書、家庭訪問、懇談会、電話連絡等による積極的な情報提供、情報交換を行った。	A	90.3%	◇学級通信の発行が減ったこともあり、教職員の評価が下がっている。しかし、ホームページ・ケーブルテレビ・学校便り等での情報発信や、様々な機会を捉えての情報交換は積極的に行っている。 ◆学級通信の発行数を増やし、児童の様子を保護者に伝える機会にする。 ◆保護者や地域の方に子どもたちの活動の様子や、学校の取組を知ってもらえるよう、今後もホームページやケーブルテレビなどを積極的に活用していく。	教職員	A	84.4%	50.0%	37.5%	12.5%	0.0%
				保護者	A	93.5%	74.2%	25.8%	0.0%	0.0%			
				地域住民	A	96.9%	87.5%	12.5%	0.0%	0.0%			
				教職員	B	78.1%	37.5%	37.5%	25.0%	0.0%			
⑳地域に根ざした教育活動やPTA活動に取り組み、保護者や地域・関係機関と積極的に連携した。	A	94.5%	◇教職員の評価も上がり、高い評価となった。地域や保護者との交流の機会も増え、よりよい関係づくりが進んでいる。 ◆今後も感染症対策を講じつつ、積極的に地域や保護者と連携しながら教育活動に努めていく。	保護者	A	96.0%	83.9%	16.1%	0.0%	0.0%			

学校運営協議会委員の所見

学校の対応

○児童は、地域や学校において気持ちの良い挨拶が十分にできている。これからも、「いつでも・どこでも・だれにでも」元気で気持ちの良い挨拶のできる児童を目指してほしい。
○子どもの健康管理について、保護者の意識も高まってきていると感じる。保護者への啓発活動を今後も続けてほしい。
○課題となっている「読書」「学習」については、指導の方法を工夫しながら、児童が意欲的に取り組めるようにしてほしい。
○公民館活動や地域の行事等では、児童が積極的に参加し、盛り上げてくれておりありがたい。今後も様々な工夫をしながら、学校や地域を大切に思う児童の育成に取り組んでほしい。
○安心、安全な学校づくりを目指すために、地域も積極的に協力していきたい。

○「保護者・地域の方に、笑顔と元気をプレゼントしよう！」を合言葉に、まずは教職員が率先垂範の姿勢を示しながら、挨拶の意義や大切さも加えた指導や声掛けを粘り強く続ける。
○児童が、自分自身の健康に対して関心を持ち、進んで実践できるよう、家庭と連携しながら取組を行っていく。
○読書や学習に対しては、頑張っている児童を称賛しながら、取組の様子を家庭にも知らせることで、意欲的に取り組める児童を育てていく。また、保護者、地域の方から読み聞かせボランティアを募り、子どもたちの読書への興味・関心が高められるような取組を行う。
○児童は、人との関わりの中で成長していく。各種行事への積極的な参加を促し、ふるさと「みしま」を愛し、誇りに思う児童を育てる。
○ホームページやケーブルテレビ、各種の学校便り等を活用しながら、児童の様子や学校の取組を積極的に発信していく。